

## 2019年3月期 第2四半期(累計) 【連結】決算ハイライト

(単位:百万円)

第2四半期(累計)業績	2018/3期 第2四半期		2019/3期 第2四半期		前年同四半期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	51,085	100.0%	53,822	100.0%	2,736	5.4%
営業利益	2,195	4.3%	3,529	6.6%	1,334	60.8%
営業外収益	639	1.3%	711	1.3%	72	11.3%
営業外費用	582	1.1%	700	1.3%	117	20.1%
うち支払利息	372	0.7%	421	0.8%	48	13.0%
うち為替差損	127	0.2%	135	0.3%	8	6.6%
経常利益	2,252	4.4%	3,541	6.6%	1,289	57.2%
特別損失	135	0.3%	-	-	△135	△100.0%
税金等調整前四半期純利益	2,116	4.1%	3,541	6.6%	1,424	67.3%
法人税等	805	1.6%	1,089	2.0%	283	35.2%
法人税等調整額	198	0.4%	0	0.0%	△198	△99.9%
非支配株主に帰属する四半期純利益	354	0.7%	353	0.7%	△0	△0.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	757	1.5%	2,098	3.9%	1,341	177.1%
為替レート(1USD/円)	112.00		110.54			
為替レート(1ユーロ/円)	127.97		127.91			

### <第2四半期(累計) 決算概要(前年同四半期比)>

【売上高】 前年同四半期比27.3億円(+5.4%)の増収。

【国内】 前年同四半期比14.9億円(+6.3%)の増収。自動車関連は、国内自動車生産台数が前年同四半期比微減の状況の中、自動車用エンジン軸受やターボチャージャー用軸受などが伸長し増収。建設機械向け軸受販売は中国・米国などの好調により増収となり、船舶向け軸受販売も増加した。

【海外】 前年同四半期比12.4億円(+4.6%)の増収。自動車関連が総じて堅調に推移し、建設機械関連も増加して、アジア・北米・欧州(ロシア含む)と海外の所在地別売上高も全て増収となった。

### 【利益】

前年同四半期に生じていた買収2社に関連する一時的な費用が無くなったことやメキシコの工場の増産に伴うコスト増要因の大幅減などにより、営業利益は35.2億円と前年同四半期に比べ13.3億円の増益となり、経常利益は35.4億円と同12.8億円の増益となった。親会社株主に帰属する四半期純利益は20.9億円と同13.4億円の増益となった。

業績推移	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2019/3期	2019/3期
	通期	通期	通期	第2四半期(累計)(予想)	第2四半期(累計)(実績)	通期(予想)
売上高	81,400	85,073	106,648	52,500	53,822	107,000
営業利益	7,114	5,103	6,511	2,800	3,529	6,700
(営業利益率)	(8.7%)	(6.0%)	(6.1%)	(5.3%)	(6.6%)	(6.3%)
経常利益	6,796	5,427	6,708	2,900	3,541	6,900
(経常利益率)	(8.3%)	(6.4%)	(6.3%)	(5.5%)	(6.6%)	(6.4%)
親会社に帰属する当期純利益	3,919	2,635	3,281	1,800	2,098	4,700
(純利益率)	(4.8%)	(3.1%)	(3.1%)	(3.4%)	(3.9%)	(4.4%)
為替レート(1USD/円)	120.61	116.49	113.00	107.00	110.54	107.00
為替レート(1ユーロ/円)	131.77	122.70	134.94	125.00	127.91	125.00

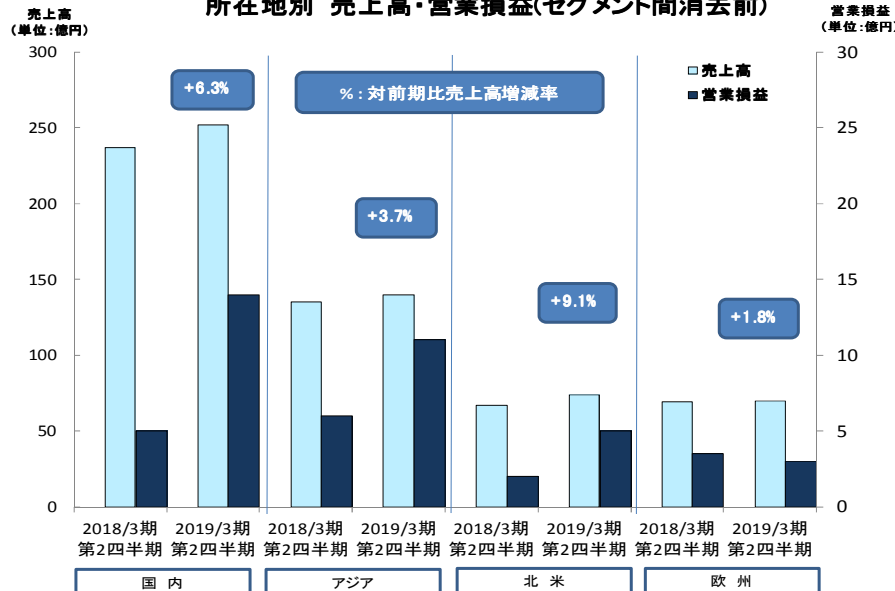
### <連結業績予想、配当予定>

2018年5月11日に公表した業績予想に変更はありません。なお配当予想につきましては、中間15円、期末15円の年間30円を据え置いております。

セグメント情報(事業別)	セグメントの売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高を含む)					
	2018/3期 第2四半期		2019/3期 第2四半期		前年同四半期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
自動車用エンジン軸受	31,169	59.6%	32,820	59.4%	1,650	5.3%
自動車用エンジン以外軸受	7,926	15.2%	8,406	15.2%	479	6.0%
非自動車用軸受	4,435	8.5%	4,694	8.5%	258	5.8%
自動車用軸受以外部品	7,459	14.3%	7,946	14.4%	486	6.5%
その他(注)	1,331	2.5%	1,393	2.5%	62	4.7%
合計	52,323	100.0%	55,260	100.0%	2,937	5.6%

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電気二重層キャパタ用電極シート、金属系無潤滑軸受事業、ポンプ関連製品事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

### 所在地別 売上高・営業損益(セグメント間消去前)



主要財務指標	2018/3末	2017/3末	2018/3末	2018/9末	2018/3末比
売上高営業利益率	8.7%	6.0%	6.1%	6.6%	+0.5pt
自己資本当期純利益率(ROE)*	9.0%	5.9%	6.9%	7.9%	+1.0pt
自己資本比率	35.8%	29.1%	30.6%	34.4%	+3.8pt
純有利子負債(有利子負債-預現金)	23,237	49,108	52,129	41,539	△10,589

\*ROEは、親会社株主に帰属する四半期純利益を年換算し算出しております。

設備投資・減価償却	2015/3期 通期	2016/3期 通期	2017/3期 通期	2018/3期 通期	2018/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期	前年同四半期比 増減額
設備投資	10,597	14,802	12,329	8,694	4,728	3,190	△1,537
減価償却費	5,744	6,259	6,751	8,795	4,206	4,191	△14

### <所在地別(前年同四半期比)>

#### ◇ 国内

・前年同四半期比の売上高増減率は+6.3%。

#### <自動車関連>

国内自動車生産台数が前年同四半期比微減の状況の中、自動車用エンジン軸受やターボチャージャー用軸受などが増加した。

#### <建設機械向け>

建設機械向け軸受販売が輸出を含めて増加した。

#### <船舶向け>

大型船舶向け低速ディーゼルエンジン用軸受及び中小型船舶など向けの中高速ディーゼルエンジン用軸受が増加し、当社の受注は復調傾向。

#### <一般産業向け>

エネルギーシフトを受けて、石炭・石油火力発電設備用特殊軸受が減少したが、再生可能エネルギー向けは堅調だった。・営業損益は、前年同四半期に発生した買収2社に係る一時的な費用が無くなったことなどにより増益となった。

#### ◇ 海外(12月決算の会社については1~6月の累計)

【アジア】 前年同四半期比の売上高増減率は+3.7%。

自動車関連では中国やタイが増加したが、韓国・インドネシアなどが減少した。営業損益は前年同四半期に発生した一時的な費用が無くなったことなどにより増益となった。

【北米】 前年同四半期比の売上高増減率は+9.1%。

米国の新車販売台数が引き続き高水準であったこと、北米での新規開拓が進んだことなどにより自動車関連売上高が増加した。また、建設機械分野の好調も寄与した。営業損益も前年同四半期のメキシコの工場の増産に伴うコスト増要因が解消し増益となった。

【欧州】 前年同四半期比の売上高増減率は+1.8%。

欧州(ロシアを含む)では、自動車関連を中心に全般的に底堅く推移し、売上高は増加した。営業損益は、ドイツの研究開発拠点及び営業拠点の費用増加などにより減益となった。

(注)

- 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 前連結会計年度において、ATAキャスティングテクノロジージャパン株式会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第2四半期連結累計期間に係る連結業績については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初仮分額の見直しを反映させた後の金額となっております。
- 「新効力会計に係る会計基準の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る連結業績については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。